

親愛なる会員並びに市民のみなさまへ

理事長 立春のご挨拶

早や立春の候、紅白の梅香漂う季節となりました。
コロナ禍の最中、先行き不安な日々の下、如何お過ごしでしょうか、皆様には、どうか、御自愛戴きますよう念じております。
財団設立から三年余り、当会の活動に対しご支援を賜わりまして篤く御礼申し上げます。

お蔭様で、昨年は三周年記念行事として、江戸東京の文化財等の調査研究委員会の開催並びに十月にはシンポジウム&パネルディスカッションをユネスコの諮問機関であるイコモス国内委員会様と共催をさせて頂きました。
テーマは、「近未来の世界遺産を目指し、江戸城等全体整備構想の策定を目指し、江戸東京野歴史文化資源を活かした観光まちづくりを推進する。」でございます。

また、千代田区や皇居周辺の歴史や文化、まちづくりの活動をされておられる皆様のご後援も戴いております。

第一線の気鋭の研究者に加えて、日本イコモス国内委員会様並びに文化財保存計画協会様のアドバイスにより基本的視点の取り纏めを行って参りました。本年はそれらの成果や今日的意義を通して、普及啓発すると共に、行政や関係機関に提言活動を進めて参ります。

- *日本イコモス国内委員会（国連教育科学文化機関（ユネスコ）の諮問機関であり、世界遺産登録の審査やモニタリング活動等）
- *文化財保存計画協会（文部科学省文化庁の認定団体、文化遺産の継承活動等）

現在のコロナ禍における厳しい社会経済環境の下、当会は、本丸御殿の復元検討など、江戸城等全体整備構想の策定は一旦、留保しつつも、その方針を堅持し、人・モノ・資金等の体制が整い次第、策定活動を開始する所存でございます。

江戸東京の歴史や文化の資源を活かした観光まちづくり（プラットフォームの創設）の形成に寄与することを目的に活動を推進して参ります。
江戸東京を近未来の世界遺産として仰ぎつつ、この運動を着実に、次世代に継承していけば、必ずや日本最大の城郭都市が実現することになるでしょう。

みなさまのご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和三年（2021年）立春2月3日
一般財団法人 江戸東京歴史文化ネッサンス
理事長 小竹直隆

